

クワダ

特別企画

2010年期待される北海道のリーダー



書家
若山 象風氏

「自然体”で見ると人を魅了する”書”
”もつと身近に感じてもらいたい”

今や商品ラベルや看板など、さまざまな場面で見られる若山氏の「書」。札幌など道内各地や、東京で開かれている「書のライブ」には多くのファンが訪れる。昨年末にはNHKへ出演し、その注目度はうなぎのぼりだ。「筆字には、少し敷居が高いイメージがある。そうではなく、ポスターや写真のように、普段家に飾れるようなものであつてほしい」と語る。「書は絵である。音楽である」と言った人もいるが、若山氏の「書」は、剛健な文字から繊細な文字まで、従来の「書」の概念を覆すデザインで描かれる。「一生懸命に書きすぎると、見る人も一生懸命見て疲れてしまう。自分の中では一生懸命やるが、出す時は自然体で。完璧

なものには見る人が入るすき間がない。「自分でも書けるんじゃないの?」と思つて、実際に書いたら難しいという程度が良いのかもしれない。ライブでは、手からその人の「気」を感じ取り、一気に筆を走らせる。「最近では、元気をください」という人が増えてきているので、「元気になれる字」を書けるよう、自身を高めている。次はどんなステージを描いているのか。「日本に留まりたくないという思いもあるが、まずは色々な人に会つて、その人のために——という「書」を書いていきたい」

（わかやま、しょうふう）
1957年生まれ。後志管内神恵内村出身。27歳の時に脱サラで書道界へ。85年札幌市円山に書道教室開設。86年商用毛筆開始。90年第一回個展開催（以降毎年開催）。